

# 単包装の消毒剤含浸綿球シリーズ

外用殺菌消毒剤

## エタコット®綿球

エタノール含浸綿球

ETHACOTTO COTTON BALL

単包装の消毒剤含浸綿球製剤なので、

1. 調製の手間が不要で、院内製剤業務の省力化が可能です。
2. 微生物汚染の心配がなく、衛生的です。
3. 開封後直ちに使用でき、在宅医療等にも適しています。
4. 消毒剤や綿球の無駄な消費をなくすことができます。



# エタコット綿球<sup>®</sup>

ETHACOTTO COTTON BALL

エタノールは、グラム陽性菌、グラム陰性菌、真菌、結核菌、各種ウイルス等に広範囲に抗微生物スペクトルを有する殺菌消毒剤で、その76.9～81.4vol%液を含浸させた綿球は、院内において手指・皮膚の消毒、医療用具の消毒等に広く用いられています。

しかし、院内で調製する際には、消毒剤・滅菌綿球の準備、万能壺の洗浄・滅菌等の手間や経費がかかり、また、調製後は微生物汚染に十分に注意し、使用期限を管理する必要があります。

エタコット綿球は、76.9～81.4vol%エタノールを綿球に含浸させた単包装の綿球製剤なので、調製の手間を省き、簡単かつ衛生的に使用できます。

## 特性

1

### 院内製剤業務の省力化

消毒剤・滅菌綿球の準備、万能壺の洗浄・滅菌等が不要なので、院内製剤業務の省力化が可能です。

2

### 衛生的

単包装の使い切りなので、消毒剤や綿球の継ぎ足し等の不衛生な使用を防止し、衛生的に使用することができます。また、調製後の使用期限等の管理も不要です。

3

### 簡単

1回の処置に必要な個数の綿球をとり、開封後直ちに使用することができます。また、携帯にも便利で、いつでも、どこでも手軽に使用でき、往診、訪問看護や在宅医療にも適しています。

4

### 経済的

使い残しがなく、消毒剤や綿球の無駄な消費をなくすことができます。

## ● 使用方法 ●



使用する綿球分の容器を、ねじる様に折り取って使用します。



フィルムは1球ずつ開封して使用することができます。



フィルムはまとめて開封して使用することもできます。

## 殺菌効果 (in vitro 試験)

グラム陽性菌、グラム陰性菌及び消毒薬抵抗性が強い非定型抗酸菌の計7菌種に対し、エタコット綿球薬液の *in vitro* における殺菌効果について試験した結果、エタコット綿球薬液は消毒用エタノールと同様に、いずれの供試菌に対しても15秒以内に殺菌し、70%イソプロパノールに比べ優れた殺菌効果が確認されました<sup>1)</sup>。

アルコール製剤	殺菌時間*						
	<i>Mycobacterium avium</i> ATCC 15769	<i>Mycobacterium terrae</i> ATCC 15755	<i>Mycobacterium kansasii</i> ATCC 25414	<i>Staphylococcus aureus</i> 209 P	<i>Enterococcus faecalis</i> ATCC 29212	<i>Escherichia coli</i> NIHJ JC-2	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> IFO 3919
エタコット綿球薬液	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間
消毒用エタノール	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間
70%イソプロパノール	30秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間	≦15秒間

\*: 99.999%以上の減少に要した時間

●尾家重治 他: 消毒用エタプラス®W液の殺菌効果. 化学療法の領域 18(10): 101-104, 2002.一部改変.

## ウイルス不活化効果 (in vitro 試験)

6種のウイルス(コクサッキーウイルスB5型、ポリオウイルス1型、エンテロウイルス70型、アデノウイルス5型、A型インフルエンザウイルス、日本脳炎ウイルス)に対し、エタコット綿球薬液の *in vitro* におけるウイルス不活化効果について試験した結果、エタコット綿球薬液及び消毒用エタノールは、70%イソプロパノールに比べ優れた不活化効果が確認されました<sup>2)</sup>。

図1. コクサッキーウイルスB5型

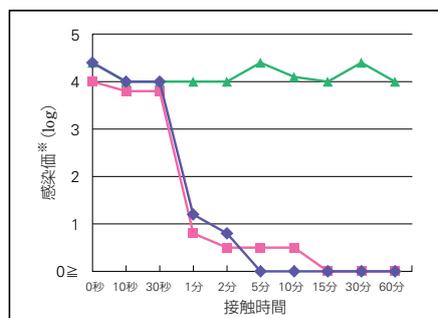
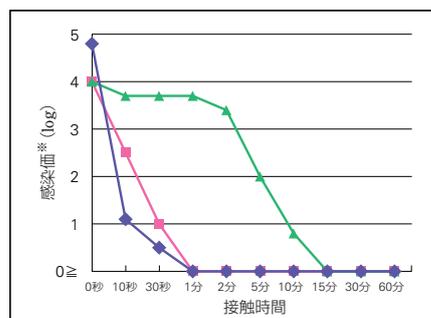


図2. アデノウイルス5型



●山崎謙治 他: 各種アルコール系殺菌消毒薬のウイルス不活化試験. 医学と薬学 48(3): 441-446, 2002.一部改変.

## 成分

#20 綿球	綿球1球(脱脂綿0.44g)あたり 76.9~81.4 vol%エタノール4.4 mL含浸
--------	--

添加物: イソプロパノール

綿球の大きさ(実物大)



## 効能効果、用法用量

- 効能効果  
手指・皮膚の消毒、医療用具の消毒
- 用法用量  
そのまま塗擦、清浄用として用いる。

## 包装

#20 綿球×1球×90 (6連球×15)

# エタコット® 綿球の DRUG INFORMATION

商品名	和名	エタコット® 綿球						
	洋名	ETHACOTTO COTTON BALL						
製造販売元	健栄製薬株式会社							
日本標準商品分類番号	872615	承認番号	(17AP) 79					
薬効分類	外用殺菌消毒剤	承認年月	2005年2月					
区分	一般用医薬品	販売開始年月	2005年11月					
成分	#20 綿球	綿球1球(脱脂綿0.44g)あたり 76.9~81.4 vol%エタノール4.4 mL含浸						
	添加物: イソプロパノール							
効能効果	手指・皮膚の消毒、医療用具の消毒							
用法用量	そのまま塗擦、清浄用として用いる。							
	<p>〈用法用量に関連する注意〉</p> <p>(1)用法用量を厳守すること。</p> <p>(2)目に入らないように注意すること。 万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗い、直ちに眼科医の診療を受けること。</p> <p>(3)過度に使用すると、脱脂等による皮ふ荒れを起こすことがある。</p> <p>(4)広範囲又は長時間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。</p> <p>(5)小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させること。</p> <p>(6)外用にのみ使用し、内服しないこと。</p> <p>(7)アルコール分がタンパク質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、医療用具等を清拭する際は血清膿汁等を十分に洗い落してから使用すること。</p>							
使用上の注意	<p>〔してはいけないこと〕 (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる) 次の部位には使用しないこと 粘膜、創傷面。</p> <p>〔相談すること〕</p> <p>1. 次の人は使用前に医師又は薬剤師に相談すること</p> <p>(1)医師の治療を受けている人。</p> <p>(2)本人又は家族がアレルギー体質の人。</p> <p>(3)薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。</p> <p>(4)患部が広範囲の人。</p> <p>(5)深い傷やひどいやけどの人。</p> <p>2. 次の場合は、直ちに使用を中止し、添付文書等を持って医師又は薬剤師に相談すること 使用後、次の症状があらわれた場合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関係部位</th> <th>症状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>皮 膚</td> <td>発疹・発赤、かゆみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 長期連用する場合には、医師又は薬剤師に相談すること</p> <p>〔その他の注意〕 本剤の使用により、アレルギーテストの検査に影響を及ぼすことがある。</p>				関係部位	症状	皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
	関係部位	症状						
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ							
保管及び取扱い上の注意	<p>〈貯 法〉 気密容器・火気を避けて室温保存 〈使用期限〉 容器等に表示</p>							
	<p>(1)直射日光の当たらない涼しい所に保管すること。</p> <p>(2)小児の手の届かない所に保管すること。</p> <p>(3)他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)</p> <p>(4)火気に近づけないこと。</p> <p>(5)使用期限の過ぎた製品は使用しないこと。</p> <p>(6)綿球は清潔なピンセット等を用いて使用し、綿球に指が触れないよう注意すること。</p> <p>(7)開封後は速やかに使用すること。</p> <p>(8)綿の表面又は内部に、小さなしみのような黒又は黄色の斑点状のものは、ワタの種子である。(変質したものではない。)</p>							
包 装	#20 綿球×1球×90							

[詳細は添付文書等をご参照ください。]

## 参考文献

- 1) 尾家重治 他: 消毒用エタプラス® W液の殺菌効果. 化学療法領域 18(10): 101-104, 2002.  
2) 山崎謙治 他: 各種アルコール系殺菌消毒薬のウイルス不活化試験. 医学と薬学 48(3): 441-446, 2002.

## 文献請求先

健栄製薬株式会社 学術情報部  
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号 電話番号06(6231)5626